

第6学年東組 社会科学習指導案

第5校時 6年東組教室
指導者

1 単元 ぼく・私たちの住んでいる日本

2 単元の目標

- ・災害復旧・復興の取り組みの中で、人のために自分のできることを具体的に考えようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ・防災や災害復旧に関して、災害時にどのようなことが必要かを調べ、人のためにできることを考え、友達や関係者に自分の考えを伝えることができる。
(思考・判断・表現)
- ・ゲストティーチャーや関係者への聞き取り調査をしたり、収集した資料を活用したりして、災害復旧・復興に必要なものをまとめることができる。
(資料活用の技能)
- ・町や県、国による災害復旧・復興の取り組みは、地方公共団体や国の政治の働きによるものや住民自身の活動があることを理解することができる。
(知識・理解)

3 子どもと教材

深溝小学区には断層があり、かつて起きた三河地震では甚大な被害を受けた。昨年度も、避難訓練を毎月実施したり、親子断層ウォークラリーを経験したりするなどして、地震に対する関心は高いと考えられる。今年5月末に起きた小笠原諸島地震や、口永良部島火山を伝える新聞やTVニュースを話題にすると、「あ、それすごい煙が上がっていた。」「お店の商品が棚からくずれ落ちていた。」のような反応が見られた。そこで、自分の町の防災や災害からの復興は地方自治体の政治の働きと自分たちの生活との関わりを学ぶのに良い機会であるにとらえ、本単元を設定した。また、社会科では社会に参画していこうとする気持ちを育成していくことが大きな課題となっている。6年東組の子どもは、楽しく人と関わろうとすることはできるが、全体的に幼く、人のために自分にできることをしようとして関わっていく意識は希薄である。そこで地域や社会での様々な立場の人たちとの交流を通して、社会について学ぶ。その中で自分自身が社会とどのように関わっていくかを考え、自分にできることを探ることによって、社会に参画していこうとする心情をもたせたいと考えた。

本単元は、まず最近の自然災害についてのニュースを提示し、自分たちの学校の立地条件と合わせて70年前に起こった三河地震について調べようという意欲をもたせる。そして、三河地震と東日本大震災とを比較することにより、70年前の戦時中に起こった大地震と東日本大震災の復興の様子が大きく違うことをつかませる。現代の災害復興では政治の働きによって、国や地方公共団体が主体となって各関係機関に働きかけて、迅速な復興に努める。このことから、国民生活の安定と向上を図るには政治の働きが重要であるということを理解させる。70年前には公的な援助がほとんどなかったという違いを知ったうえで、今、幸田町で第2の三河地震が起きたときらどうなるだろうかを考える。調べ学習や幸田町役場防災安全課の方からの聞き取りを行うことにより、自分たちにできることを考えようとする思いをもたせたい。以前、カンボジアの学生が来校した際、子供たちは普段の生活では見られないほど意欲的に関わろうとする姿が見られた。人との関わりをもつことが子どもの意欲が喚起されるということから、本単元においても、様々な人との関わりをもたせることで、子どもたちが積極的に自分の考えを表現していこうとする意欲が喚起されると考えた。

本時では、それまでの一連の流れを振り返り、自分にできることを再構築する授業である。抽出児C子は、社会科に対する興味・関心は高い。普段は友達とも関わっているにもかかわらず、授業での積極的な発言は乏しい。しかし、カンボジアの学生が来校した際には、率先して関わろうとし、意見する姿が見られた。様々な人と関わっていくことで、新しい人へも自ら関わっていこうとする姿を期待したい。

4 「災害に強い社会を目指して、ぼく・私にできること」単元構想図（16時間完了）

最近起こった自然災害（小笠原諸島地震、口永良部島の噴火活動）に着目 1時

- 大きく揺れていてこわい。
- 過去の大きな震災の写真を見ると、怖い。
- 災害はいつ起こるか分からない。
- 人の命をうばうもの、恐ろしい。
- 深溝は大丈夫なのだろうか？ 避難訓練は毎月行っているけど・・・
- 深溝断層を見ると、地面がすごくずれていたぞ。
- 地割れの写真も見たことがある。
- 再び大きな地震がきたら、幸田町や深溝小学区は大丈夫なのだろうか。

70年前に起こった大地震、三河地震をしっかりと調べてみたい。

三河地震を調べよう 2～5時

- 三河地震の調べ学習（愛知防災物語・インターネット）
- 三河地震に関するTV番組の視聴（三河地震70周年を記念して制作された特集VTR）
 - 支援のない中で、震災後の食料や飲み水等はどうにしていたのだろうか。
 - 家屋の倒壊により、雨、風、そして寒さはどうに凌いでいたのだろうか。
 - 震災後の学校での生活はどうに変わってしまったのだろうか。

実際に被災された方に話を聞いてみたい。

●三河地震体験者への聞き取り【三浦正春さん（当時12歳）・三浦八郎さん（当時11歳）地震後の暮らしに着目する】

- 家が倒壊したにもかかわらず、なかなか建て直すことができなかった。
- 戦時中であり、被災地の願いに対する国からのサポートは全くなかった。

国からの復興支援がなく、大変な暮らしを強いられていたんだ。

東日本大震災はどうだったのだろうか？ 6～10時

- 東日本大震災の調べ学習（教科書、インターネット、書物）
 - 被災した人々の願いは、政治の働きによって実現されていった。
 - 災害対策本部を設置し、避難所の開設、水、食料、仮設トイレ等の手配を要請した。
 - 災害救助法を適用し、自衛隊の派遣要請、必要物資を送る準備等を行った。
 - 復旧を進めるため、第一次補正予算を成立させ、仮設住宅やライフラインの復旧を行った。
 - 気仙沼市では、震災から約3ヶ月後にはかつおの水あげが始まり、震災後も生鮮かつおの水揚げ日本一を維持した。
 - 東日本大震災に直接関わった人の話を聞く【山北淳先生（多賀城市で支援活動を行う）】
 - 災害の大きさが分かった。（300軒もの新しい家が全壊、石油タンクの倒壊で海が炎上、人が乗ったまま津波に流されていく車の映像、折れた電柱やフェンス、曲がった線路等）
- 大規模な震災であったが・・・被災地の声に耳を傾け、国が支援したことで復興が円滑に進んだ。日本の各地からも多くのボランティアが集まり、様々な活動で被災地の人々を支えた。また、国際社会から多くの支援を受けた。
- 全国から自衛隊、警察や消防等の派遣。
 - 食料や衣類等、全国からの物的支援。
 - 有名人によるチャリティー活動や多くのボランティアによる活動。

国や地方自治体からの支援、日本中の人々による支援活動により、復旧・復興が進んだね。

【※今は、三河地震のころの時代とは全然違うんだなあ。（三河地震との比較）

（じゃあ今だったらどうなの？）

再び大規模な震災が起きたら、幸田町は大丈夫なの？ 11～14時

- 調べ学習（インターネット、家の人への聞き取りなど）
 - 幸田町のホームページに「地域防災計画」があるぞ。
 - 防災マニュアルがあるんだ。
 - 食料・飲み水の備蓄は7日分を準備するといいて書いてあるよ。
 - 備えが大切だ。
 - 役場の人に聞く【総務部 安全防災課 春日井さん】
 - 十分に対策を練って備えていることが分かった。
 - 家でももっと家族と話し合っって震災に備えたい。
 - 地域に防災の意識をもっと広げていきたい。
- 防災学習へ（総合学習）
防災計画を立てよう
- それだけで本当に大丈夫だろうか。
 - もっと〇〇であってほしい。
 - みんなはどう思っているのだろうか。
 - こういうこともやってほしい。
 - みんなでもっと考えていかないといけない。

第2の三河地震に向けて、ぼく・私たちにできることを考えたい。

ぼく・私たちにできることを考えよう 15時・16時（本時）

- これまでの一連の学習をよく振り返り、自分にできることを考える。
 - △つっぱり棒や転倒防止金具はつける。
 - △非常食を含め防災袋を充実させる。
 - ◎普段から地域の防災訓練に参加したい。
 - ◎災害時はみんなで助け合いたい。

個の枠を越えていない

個の枠を越え、社会に参画する子どもの姿

〈教師支援〉

- ※導入として映像を見せる。
- ・小笠原諸島を震源とする地震を伝えるニュース
- ・口永良部島の噴火の様子を記録した映像
- ・阪神淡路大震災直後の様子を記録した写真
- ・東日本大震災直後の様子を記録した写真
- ・BGM「しあわせ運べるように」をリピート
- ※「愛知防災物語—昔・今・未来へつなげる命—」の活用
- ※三河地震の特集VTR視聴
- ※町内の体験者への聞き取り
- ※三河地震の被害の大きさを知るとともに、戦時中であつたために救済が得られずに苦労したことを感じ取らせる。
- ※現代において、災害からの復興はどのような形で進められるのか、という視点で東日本大震災に着目させる。
- ・教科書（下）「震災復興の願いを実現する政治」で調べ、まとめさせる。
- ※震災の大きさではなく、どのようにして復旧・復興が進んでいったのかに着目し、国や地方自治体からの支援など、政治が大きく関係していることに関心をもたせる。
- ※被災地で支援活動を行った人の生の声を聞くことで、震災の備えに大切なことを知ることや、震災時の具体的な復興支援の様子を学ぶ。
- ※東日本大震災から再び地元視点に戻し、幸田町の考える備えに着目し調べる。
- ・インターネット
- ・身近な大人への聞き取り
- ※「災害から命を守る防災マニュアル-幸田町地域防災計画概要版-」の活用
- ※調べたことから生じた疑問点や問題点を明確にさせ、役場の方に質問する機会を設ける。
- ※役場の方から教えてもらったことをよく振り返る。
- ※これまでの学習の流れをしっかりとおさらいし、本単元のまとめとして、「ぼく・私たちにできること」を考えさせる中で、社会に参画していこうとする子どもを育む。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・「助け合い」というキーワードを元に、自分にできることを再構築し、人のために自分のできることをしようとする気持ちをもつことができる。

(2) 準備

- ・教師 センテンスカード「助け合い」「地震が起きた後」「地震が起きる前」
- ・子ども 社会科ファイル

(3) 本時の展開

時間	学 習 活 動	教師の活動と支援 ※評価
0	1 抽出児 C 子の発表を聞く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 地域の人々と助け合いながらがんばりたい。 </div> 2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 「助け合い」をキーワードに自分にできることを見直してみよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返り、「ぼく・私たちにできること」を書いたプリントで、発言を期待したい箇所に朱書きをしておく。
2	3 課題について話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">地震が起きる前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練に参加する。 ・日頃から地域の人と相談して、仲良くなっておくことが大事。 ・学んだ防災の知識を知り合いの人たちに教えてあげたい。 </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">地震が起きた後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りを助けたい。 ・悲しんでいる小さい子を笑顔にしたい。 ・自分の非常食を他の人にも分けてあげたい。 ・がれき撤去など復旧活動に取り組む。 ・被災者にもなるけれど、もっと被害の大きい地域に役立つものを集めて持っていきたい。 </div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・出てきた意見を、「地震が起きた後」と「地震が起きる前」とに分けて、構造的に板書する。 ・具体的でない意見に対しては、具体性をもたせられるように、友達の意見を参考にしても良いことを伝える。 ・これまでの授業で学んだことから思い起こすように助言する。 ・そこまでに友達の良い意見について発言するように伝える。 ・「地震が起きた後」と「地震が起きる前」とを比較させ、「地震が起きる前」の意見が少ないことに気付かせる。
32	4 本時を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きたときは、みんなで協力し合っていくことの大切さを実感した。 ・普段から、地域の人たちとのつながりを大切にしたい。 ・地域の活動にもっと参加していきたいと思った。 ・地域のお年寄りの人をいち早く助けなくてはいけないなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をし、うまく振り返りが書けない子どもには助言し、支援する。 ・本時のまとめにふさわしく、人のために行動したいという考え（社会に参画していく態度）を抱いた子どもを数名に発表させる。

(4) 評価

- ・人のために自分にできることをしようとする気持ちをもてたか。

○本時の視点

- ・人のために自分にできることをしようという気持ちを抱かせるために、キーワード「助け合い」を提示したことは有効であったか。